

北海道ユースプランナーミーティング 実施報告書

1 日時

令和6年(2024年)2月20日(火) 13時30分~15時30分

2 方法

オンライン (Zoom)

3 参加者

4名

4 事務局

3名

5 ミーティングの流れ

13:30	13:35	(5分)	開会・本日の流れについて
13:35	14:05	(30分)	自己紹介・アイスブレイク
14:05	14:45	(40分)	トークテーマ① ユースプランナーの活動について
14:45	14:50	(5分)	休憩
14:50	15:30	(40分)	トークテーマ② 北海道の子ども施策について
15:30	16:30	(60分)	閉会

6 トークテーマ

- (1) ユースプランナーの活動について
- (2) 北海道の子ども施策について

7 ユースプランナーの意見

別紙1のとおり

8 事後アンケートの結果

別紙2のとおり

1 ユースプランナーの活動について

【登録者を増やすために】

- ・ ユースプランナーの活動自体の認知度が低い。
- ・ どういった活動をしているのかということと、活動頻度がそんなに高くなく、負担にならないことをアピールすると良い。
- ・ 大学の構内にポスターや活動内容を掲示すれば、もっと目につくと思う。
- ・ ポスターの掲示だけでなく、直接道の職員から話を聞いた方が、登録する人はいると思う。

【積極的に活動するプランナーを増やすために】

- ・ 活動のお知らせは目にするが、その結果・報告が目につきにくい。登録していても、自分たちが何をして、自分たちの活動がどのように反映されているのかが、わかりにくい。
- ・ SNS などもっと目に触れやすいところに、写真レポートや実際に行った人の声、大学生の感想みたいなものがあれば、見てみたいと思う。
- ・ ユースプランナー同士の横の繋がり、仲間意識が薄いのが、仲間の声などを見ることができたら、もう少し積極的にユースプランナーの情報を得るようになると思う。
- ・ 報告書という形だけでなく、もう少しゆるい形がいい。「道がやっている事業だから、とつきにくい」というのを壊したい。

【ユースプランナーにどういった形で連絡をするのが伝わりやすいか】

- ・ SNS 等を使うのがユースプランナー世代は認知しやすい。
- ・ LINE のオープンチャットなどの機能でやり取りすると、自分の名前を変えられるので、匿名性、個人情報も担保できるし、登録者数やアクティブに活動している人の様子がわかると思う。
- ・ LINE だとプライベートな連絡に埋もれてしまうので、公私を分けるといった意味でも、Slack や Google チャットだとオフィシャルな感じもして、運用も比較的楽だと思う。匿名性という点では、難しい面もある。

【ユースプランナーに関する情報の発信について】

- ・ ユースプランナーの声を SNS で発信して、それをユースプランナーが共有・拡散することでさらに広がっていく可能性もある。
- ・ ユースプランナー用の新しいアカウント作ってもいいと思う。子ども政策局のアカウントは、婚活などの情報が多く、大学生が食いつくような投稿でないものも多いので、他の大学生に共有しにくい部分がある。

【活動のインセンティブについて】

- ・ 児童相談所に見学に行き、他のユースプランナーと話す機会があったのが、いい経験だったと感じている。他のユースプランナーと対面で話す機会がもっとあれば、横の繋がりもメリットと言えると思う。
- ・ 施設見学や訪問など、行政がやっているからこそ経験できるイベントが多いといいと思う。

【活動の時期について】

- ・ 地方に住んでいると、授業期間中はイベントなどには参加しにくいので、施設見学などのイベントは春休みや夏休みに集中的にあると、参加できる人も増えると思う。
- ・ 可能であればレポート期間とかテスト期間を避けて欲しい。

【その他】

- ・ ユースプランナーの中でも経済に興味がある人、医療に興味がある人など、区分を分けると、もっとよりたくさんの大学生世代の人たちが参加しても、自分の興味のあることについてだけ考えられるので、意見も出しやすいと思う。

2 北海道の子ども施策について

(1) こども・若者の意見反映について

【幅広い世代が関心を持てるテーマ】

- ・ 給食についてであれば、小学校と中学校でみんな食べているし、給食で出てくる食べ物の中に、道産のものがあるので考えやすいと思う。

【参加したユースプランナーの関心のあるテーマ】

- ・ 教育移住から考える地方の地域活性化のような社会教育分野に関心がある。
- ・ ヤングケアラーに関心がある。学業との両立が難しい等の課題にどうサポートしていくかというところが関心のある分野。

【意見聴取の方法について】

- ・ スマホ等を使ってフォームで回答するのと並行して、紙に書いて出せるようにした方が子どもにとっては意見を出しやすいと思う。スマホを持ってない子どももいるし、学校以外の自分の落ち着いた空間、家とかで意見を考えたりできないと、質の良い意見がもらえないと思う。
- ・ 「こども新聞」の作成など、イベントと掛け合わせながら、お題を出して「これについて君たちはどう考える?」「考えて新聞を作ってみよう」というような形で実施すると、ただ「意見をください」とチラシを配布するよりも、食いつきがいいと思う。夏休みや冬休みの前に周知すれば、学校側も勧めやすい。「夏休みの宿題や自由研究をこれにしてもいいよ」と学校側も子どもたちにプッシュしやすい、いいきっかけになるのではないかな。

(2) 北海道の子ども施策全般について

【参加したユースプランナーの関心のある子ども施策に関するテーマ】

- ・ 子どもの医療費について関心がある。住んだ場所によって医療費や掛かるお金が変わってきてしまうというのは、どうなんだろうと感じている。
- ・ ヤングケアラーに関心がある。また、ヤングケアラーに付随して一緒に考えていかなければいけないのがひとり親家庭の問題や子どもの貧困の問題だと考えている。これらは家庭だけでどうにかできる問題ではないので、北海道や各市町村がバックアップ・支援していかなければならない。そうした支援が少子化の歯止めになったりするのではないかと感じている。
- ・ 障がい児の教育、障がいのない子どもと障がいのある子どもたちが一緒に同じ学び舎で同じ教室で勉強するインクルーシブ教育に関心がある。今後ユースプランナーの活動の中で、話題として出てきたら嬉しい。
- ・ 託児施設ではなくて、他の親御さんの家、一般の住宅の親御さんに預けるというサービスに関心がある。保育園も混んでいると聞くので、必要なときだけ預けられる施設を一般住宅にするのもっと簡単に増やせるだろうし、面白いと思っている。

北海道ユースプランナーミーティング 事後アンケート結果

1 方法

簡易申請システム

2 回収状況

3名（回収率75%）

3 アンケート結果

(1) ミーティングに参加した感想

	回答	割合
とても満足	1名	33%
やや満足	2名	66%
どちらでもない	0名	0%
やや不満	0名	0%
とても不満	0名	0%

(2) (1) のように回答した理由

とても満足 (1名)	普段 zoom で会議に参加する時は話しづらいと感じていたけれど、今回のミーティングでは、積極的に話しやすい環境でよかったです。
やや満足 (2名)	ユースプランナーの方たちとの意見交流はとても有意義だなと感じます。参加人数がもう少し多ければ対面で行いたかったと感じますが、なかなか都合もそれぞれあるので、今日の形で充分満足でした。
	他のユースプランナーとの交流や意見交換が出来たから。もう少し大人数で交流できるとより良かった。

(3) ミーティングの実施方法について

	回答	割合
オンライン (Zoom) で良かった	0名	0%
対面の方が良い	3名	100%
ハイブリッド形式の方が良い	0名	0%
その他	0名	0%

(4) ミーティングの所要時間について

	回答	割合
長い	0名	0%
やや長い	0名	0%
ちょうど良い	3名	100%
やや短い	0名	0%
短い	0名	0%

(5) ミーティング参加の動機（複数回答可）

選択肢	回答	割合
北海道の子ども施策に関心があったから	0名	0%
北海道の子ども施策に関心があったから	3名	100%
学業につながると思ったから	2名	66%
就職活動に役立つと思ったから	0名	0%
特にない	0名	0%
その他	0名	0%

(6) その他、今回のミーティングや本制度への意見等

- ・ 貴重な体験ができました。ありがとうございました。また参加したいです。
- ・ ユースプランナーの知名度が上がって、より若者の声を取り入れた施策をみんなで考えられると良いと思った。